

訳注：この文書はTTC標準化人材育成セミナー「国際標準化会合の参加に向けて」（2025年2月12日）の教材として機械翻訳を利用し作成しました。用語等は十分に精査できていませんので、ご注意ください。

## Recommendation ITU-T A.8

### Alternative approval process for new and revised ITU-T Recommendations

新規および改訂された ITU-T 勧告の代替承認プロセス

#### 1. 一般

**1.1.** ITU-T (ITU-T) の勧告は、この代替承認プロセス (AAP) を使用して承認される。ただし、政策または規制に影響を及ぼす勧告は、世界電気通信標準化会議 (WTSA) の決議 1 にある従来の承認プロセス (TAP) を使用して承認される。権限のある研究グループは、世界電気通信標準化会議 (WTSA) で承認を求めることもできる。

**1.2.** ITU 条約に従って、承認された勧告のステータスは、AAP と TAP の両方の承認方法で同じである。

#### 2. プロセス

**2.1.** 研究グループは、新規および改訂された勧告案が十分に成熟した状態に開発され次第、その承認を求めるために、第 3 項から第 6 項に記載された AAP を適用する必要がある。図 1 は、一連のイベントを示している。

注：不一致がある場合は、第 3 項から第 6 項が図 1 に優先する。

#### 3. 前提条件

**3.1.** 研究グループ議長の要請があった場合、電気通信標準化局 (TSB) の局長は、AAP を適用し、この勧告に記載されている最後のコールを開始する意図を発表するものとする (第 4 項を参照)。そのような措置は、研究グループまたは作業部会の会議、または例外的に WTSA で、勧告案がそのような措置のために十分に成熟しているという同意に基づくものとする。この段階で、勧告案は「同意」を有するとみなされる。局長は、発表に勧告案の要約を含めるものとする。検討される新規または改訂された勧告案の本文が見つかる可能性のある文書への参照を提供するものとする。この情報は、すべての加盟国およびセクターメンバーが利用できるようにするものとする。

**3.2.** 新規または改訂された勧告案の本文は、局長がこの勧告に記載されている AAP の意図された適用を発表した時点で、最終編集された形式で TSB が利用できるようにしなければならない。勧告に含まれる関連する電子資料 (例えば、ソフトウェア、テストベクトルなど) も、同時に TSB が利用できるようにしなければならない。勧告 ITU-T A.5 は、ITU-T 勧告で他の組織の文書を規範的に参照するための一般的な手順を提供する。勧告案の最終編集された本文を反映した要約も、3.3 項に従って TSB に提供されなければならない。

**3.3.** そのような要約は、ITU-T 勧告を起草するための著者のガイドに従って作成される必要がある。この要約は、新規または改訂された勧告案の目的と内容、および必要に応じて改訂の意図の簡単な概要である。この要約の記述がなければ、勧告は完全で承認の準備ができているとは見なされない。

**3.4.** 承認を求めることができるのは、条約第 192 号に従って割り当てられた問題によって定義された研究会の権限の範囲内にある新たな又は改正された勧告案についてのみとする。代替的に又は追加的に、研究グループの責任及び権限の範囲内で既存の勧告の改正について承認を求めることができる。

**3.5.** 新たな又は改正された勧告案が複数の研究グループの権限の範囲内にある場合には、承認を提案する研究グループの議長は、この承認手続の適用を進める前に、関係する他の研究グループの議長の見解を協議し、考慮に入れるべきである。

**3.6.** 勧告は、ITU-T/ITU-R/ISO/IEC の共通特許方針、ITU ソフトウェア著作権ガイドライン及び ITU-T 勧告へのマークの包含に関する ITU-T ガイドライン (<https://www.itu.int/ipr>)に従って、また、外部ソースから取得されたテキスト又は画像に対する著作権制限の可能性を考慮して、詳細に作成されるべきである(4.2 項も参照)。例:

**3.6.1.** ITU-T の作業に参加する当事者は、最初から、ITU-T 局長に対し、自己又は他の組織の既知の特許又は既知の係属中の特許出願について注意を喚起すべきである。ITU-T ウェブサイトからの「特許声明及びライセンス宣言」フォームが使用されるべきである。

**3.6.2.** ITU-T 勧告を実施するためにその使用が必要とされる特許又は係属中の特許出願を保有する ITU-T の非メンバー組織は、ITU-T ウェブサイトで入手可能なフォームを使用して TSB に「特許声明及びライセンス宣言」を提出することができる。

**3.7.** 安定性のために、新たな又は改正された勧告が承認された後は、通常、当該新たな本文又は当該改正された部分の更なる改正について合理的な期間内に承認を求めるべきではない。ただし、提案された改正が、以前の承認プロセスにおいて到達した合意を変更するのではなく補完するものである場合、又は重大な誤り又は遺漏が発見された場合は、この限りでない。ガイドラインとして、この文脈において、「合理的な期間」は、ほとんどの場合、少なくとも 2 年となる。欠陥を訂正する改正は、7.1 項に従って承認することができる。

## **4. 最終コール及び追加審査**

**4.1.** 最終コールは、局長が代替承認プロセスを適用する意思を表明することから始まる 4 週間の期間及び手続を含む(3.1 項)。

**4.2.** TSB が、発行された又は係属中の 1 又は複数の著作権又は特許によって保護されている知的所有権の使用が勧告案を実施するために必要であることを示す陳述書を受領した場合は、局長は、この情報を ITU-T のウェブサイトに掲示しなければならない。

**4.3.** TSB の局長は、他の 2 つの局の局長に対し、加盟国及びセクターメンバーが、提案された新たな又は改訂された勧告の承認について意見を述べるよう求められていることを通知する。

**4.4.** 最終コールにおいて、加盟国又はセクターメンバーのいずれかが、新勧告案又は改訂勧告案を承認すべきでないとの意見を有する場合には、不承認の理由を助言し、新勧告案又は改訂勧告案の更なる検討及び承認を容易にする可能性のある変更を示すべきである。TSB は、ITU-T のメンバーに対してコメントを提供する。

**4.4.1.** 誤植(スペルミス、構文エラー、句読点の間違いなど)を示すコメント以外のコメントが最終コールの終わりまでに受信されなかった場合、新規または改訂された勧告案は承認されたとみなされ、誤植は訂正される。

**4.4.2.** 印刷上の誤りを示すものの以外のコメントが最終コールの終わりまでに受領された場合には、研究会の議長は、TSB と協議の上、次の事項について判断する。

- a) 計画された研究グループ会議が、承認のための勧告案を検討するのに十分に近いものであり、その場合、研究グループ会議での承認に関する 4.6 項の手順が適用される;または
- b) 時間を節約するため、および/または作業の性質と成熟度のために、コメントの解決は、研究グループの議長の指示の下で開始されるべきである。これは、電子通信または会議を通じて、適切な研究グループの専門家によって達成される。必要に応じて、改訂、編集された原案が作成され、4.4.3 項から始まる手順が適用される。

**4.4.3.** 誤植を示すコメント以外のコメントが最終コールプロセスの終了時に受領された場合、報告者は、編集者の協力を得て、通常は最終コールの終了から 2 週間以内に、コメント解決プロセスを完了するための基礎として使用するために、そのようなすべてのコメントを、例えば表(附属書 A 参照)の形式で、単一の文書にまとめるものとする。

**4.4.4.** 意見の解決が完了し、改訂及び編集された草案が利用可能となった後、研究グループの議長は、TSB と協議の上、次の事項について判断する。

- a) 計画された研究グループ会議が、承認のための勧告案を検討するのに十分に近く、その場合には 4.6 項の手順が適用される。又は

- b) 時間を節約するために、及び/又は作業の性質及び成熟度のために、追加のレビューが開始されるべきであり、その場合には 4.5 項の手順が適用される。又は
- c) ITU-T A.5、引用文書 B の基準に従ってまだ認定されていない参照組織に新しい附属書が追加され、その場合には 4.6 項の手順が適用される。

**4.5.** 追加レビューは、3 週間の期間を含み、局長によって発表される。勧告案の最終編集された形式の本文(意見の解決の結果としての改正を含む)及び最終の要請からの意見であってその解決が単一の文書(例えば、附属書 A に提案されている表の形式)にまとめられたものは、局長が追加の見直しの発表を行う時に TSB が利用することができるようにしなければならない。勧告案の本文及び検討されるべき最終の要請の意見が記載されている文書を参照すること。

注 - コメント解決の結果として新しい引用文書が追加された場合、ITU-T A.5 の正当性への参照がコメント解決に含まれる (ITU-T A.5 勧告の 6.4 項を参照)。

**4.5.1.** 誤植(スペルミス、構文及び句読点の誤り等)を示すコメント以外のコメントが追加レビューの終了時までには受領されなかった場合、勧告は承認されたものとみなされ、TSB によって誤植が訂正される。

**4.5.2.** 誤植を示すコメント以外のコメントが追加レビューの終了時までには受領されなかった場合、研究グループ会議での承認に関する 4.6 項の手順が適用される。

注 - これには、AAP 追加レビュー中に提出されたコメントの解決の結果として新たな引用文書が追加された場合、又は AAP 最終コール中に提出されたコメントの解決の結果として新たな引用文書が追加されたことについて懸念が表明された場合が含まれる。

**4.6.** 局長は、研究グループ会議の少なくとも 3 週間前に、勧告案を承認する意図を明示的に発表するものとする。局長は、提案の具体的な意図を要約した形式で含めるものとする。最終コール(及び関連する場合は追加レビュー)からの原案及びコメントが見つかる可能性のある文書への参照を提供するものとする。最終編集形式の勧告案の本文(コメント解決の結果としての改訂を含む)、並びに最終コール(又は追加レビュー)からのコメント及びその解決をまとめた単一の文書(例えば、附属書 A に提案されている表の形式)は、局長が発表を行う時点で TSB が利用できるようにしなければならない。追加レビュー(又は追加レビューがない場合は最終コール)からの勧告案の編集された本文は、第 5 項に従って研究グループ会議による承認のために提出される。

## **5. 研究グループ会合における手続**

**5.1.** 研究グループは、新規又は改訂された勧告案の本文及び 4.6 項に規定する文書中の関連するコメントを検討すべきである。その後、会議は、新規又は改訂された勧告案に対

する訂正又は修正を受け入れることができる。研究グループは、要約の記述をその完全性の観点から再評価すべきである。

**5.2.** 変更は、前回の要請、追加的な検討、貢献又は連絡文書を含む一時的な文書の結果としての書面によるコメントの結果としてのみ、会議中に行うことができる。そのような改訂の提案が正当化されるが、勧告の意図に大きな影響を与えるか、又は前回の研究グループ会合又は作業部会会合で合意された原則から逸脱していると認められる場合には、この承認手続の検討は、この会合において適用されるべきではない。ただし、正当な理由がある場合には、研究グループの議長が TSB と協議の上、次の事項を考慮するときは、承認手続を適用することができる。

- 提案された変更が、会議に代表されていない加盟国およびセクターメンバーに対して(本項に記載された文書の文脈において)合理的であること、または変更された状況の下で適切に代表されていないこと、および
- 提案された条文が安定していること。

ただし、出席した加盟国が、この条文が政策または規制に影響を及ぼすと宣言した場合、または疑義がある場合は、WTSA 決議 1 の 9.3 項または 5.8 項に従って承認手順を進めるものとする。

**5.3.** 研究グループ会議での議論の後、この承認手順に基づく勧告を承認する会議の決定は、反対されないものでなければならない(ただし、5.5 項、5.7 項および 5.8 項を参照)。反対されない合意に達するためにあらゆる努力が払われるべきである。

**5.4.** これらの試みにもかかわらず、反対されない合意に達しなかった場合、出席したセクターメンバーとの協議の後、会議に出席した 1 つ以上の加盟国が勧告を承認する決定に反対しない場合、勧告は承認されたものとみなされる。(ただし、5.5 項、5.6 項および 5.8 項を参照)。それ以外の場合、研究グループは、残りの問題に対処するための追加作業を承認することができる。

**5.5.** 加盟国またはセクターメンバーが条文の承認に反対することを選択しないが、1 つ以上の側面に関する懸念の程度を登録したい場合は、会議の報告書に記載するものとする。そのような懸念は、関連する勧告の本文に添付された簡潔な注釈に記載するものとする。

**5.6.** 会議中に、会議のすべての参加者が最終形式で入手できる条文に基づいて決定を下さなければならない。例外的に、ただし会議中に限り、加盟国は 5.4 項の立場を検討するためにより多くの時間を要求することができる。TSB 局長が会議終了から 4 週間以内に反

対の通知を受けない限り、勧告は承認され、局長は 6.1 項に従って手続きを進めるものとする。

**5.6.1.** 自国の立場を検討するためにより多くの時間を要求し、5.6 項に規定された 4 週間の間隔内に不承認を示した加盟国は、その理由を含め、必要に応じて、新しいまたは改訂された勧告案の将来の承認のためのさらなる検討を容易にする可能性のある変更を示すよう要求される。

**5.7.** 加盟国またはセクターメンバーは、会議において、手続きの適用を控えることを通知することができる。その場合、5.3 項の目的のためにその存在は無視されるものとする。そのような棄権は、その後、会議の進行中にのみ取り消すことができる。

**5.8.** 新たな又は改正された勧告案が承認されない場合には、研究会の議長は、関係当事者との協議の後、その後の作業部会又は研究会の会合において更なる同意を得ることなく、第 3.1 項に従って手続きを進めることができる。

## **6. 通知**

**6.1.** TSB 局長は、ラストコール及び追加レビューの結果(承認又は不承認を示す)を速やかに委員に通知するものとする。

**6.2.** TSB 局長は、第 5.3 項から第 5.5 項までに規定する研究会の閉会日から 2 週間以内に、又は例外的に第 5.6 項に規定する期間の 2 週間後に、本文が承認されたか否かを回報により通知するものとする。TSB 局長は、この情報が次に利用可能な国際電気通信連合運用公報にも含まれるように手配するものとする。この同じ期間内に、TSB は、承認された勧告が最終的な公表形式ではない可能性があることを示しつつ、オンラインで利用可能であることを確保するものとする。

**6.3.** 承認のために提出された本文中の軽微な、純粋に編集上の修正又は明らかな見落とし若しくは矛盾の訂正が必要な場合には、TSB は、研究会の委員長の承認を得てこれらを訂正することができる。

**6.4.** 事務局長は、承認された新たな又は改正された勧告を、必要に応じて効力発生の日を示しつつ、実行可能な限り速やかに公表するものとする。ただし、勧告 ITUT A.11 に従い、軽微な改正は、完全な再発行ではなく正誤表の対象とすることができる。また、適当な場合には、市場のニーズに適合するように本文をグループ化することができる。

**6.5.** すべての新たな及び改正された勧告の表紙に、利用者に国際電気通信連合特許データベース及び国際電気通信連合ソフトウェア著作権データベースを参照するよう促す本文を追加するものとする。提案される文言は以下のとおりである。

「ITU は、この勧告の実施または実施には、主張された知的財産権の使用が含まれる可能性があることに注意を喚起する。ITU は、ITU 加盟国およびセクターメンバーによって主張されたか、または勧告開発プロセス外の他者によって主張されたかにかかわらず、主張された知的財産権の証拠、有効性または適用性に関していかなる立場もとらない。」

「この勧告の承認日の時点で、ITU は、この勧告を実施するために必要とされる可能性のある特許/ソフトウェア著作権によって保護された知的財産の通知を受け取っていた/受け取っていなかった。しかし、実装者は、これが最新の情報を表していない可能性があることに注意し、したがって、ITU-T ウェブサイトで利用可能な適切な ITU-T データベースを参照することが強く推奨される。」

**6.6.** 新たな及び改正された勧告の公表に関する勧告 ITU-T A.11 を参照。

## **7. 欠陥の訂正**

**7.1.** 研究グループが、実装者に勧告の欠陥(例えば、誤植、編集上の誤り、曖昧さ、省略又は不整合及び技術的な誤り)を認識させる必要性を特定した場合、使用される可能性のある 1 つのメカニズムは、実装者ガイドである。このガイドは、特定されたすべての欠陥とその修正状況を、それらの特定から最終的な解決まで記録した履歴文書である。実装者ガイドは、研究グループによって合意されるか、または研究グループ議長の同意を得てその作業部会の 1 つによって合意されなければならない。実装者ガイドは、オープンアクセスで ITU-T ウェブサイトに掲載することによって利用可能にされなければならない。

## **8. 勧告の削除**

**8.1.** WTSA による勧告の削除研究グループの決定に基づき、議長は WTSA への報告書に勧告の削除要請を含めるものとする。WTSA はこの要請を承認することができる。

### **8.2. WTSA 間の勧告の削除**

**8.2.1.** 研究グループ会議において、勧告を削除することに合意することができる。すなわち、勧告が別の勧告に取って代わられたため、または勧告が時代遅れになったためである。会議に出席した加盟国およびセクターメンバーによるこの合意は、反対されないものでなければならない。反対されない合意に達していない場合は、5.4 項と同じ基準が適用される。削除の理由に関する説明的な要約を含むこの合意に関する情報は、回覧によって提供されるものとする。削除に対する異議が 3 ヶ月以内に加盟国またはセクターメンバーから受領されない場合、削除は発効する。異議の場合、問題は研究グループに差し戻される。



**8.2.2.** 結果の通知は別の回覧で行われ、TSAG は TSB 局長からの報告によって通知される。さらに、局長は、適切な場合にはいつでも、少なくとも 1 回は研究期間の半ばまでに、削除された勧告のリストを公表するものとする。

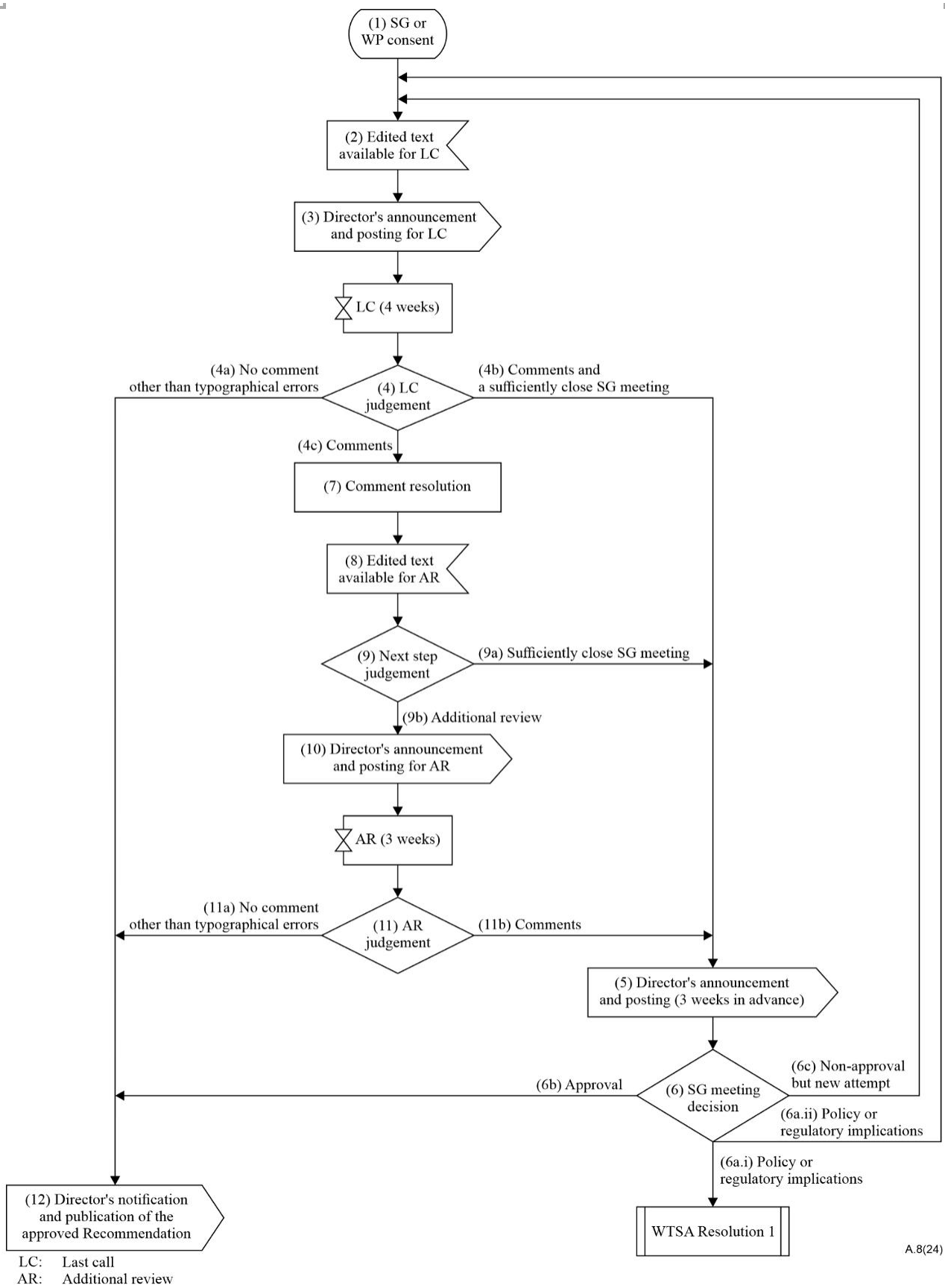


図 1-AAP の一連のイベント

## 図 1 の注記 - イベントの AAP シーケンス

- 1) SG または WP の同意 - 研究グループまたは作業部会は、勧告案に関する作業が十分に成熟しており、代替承認プロセスを開始し、最終コールを開始することができると結論付けている(3.1 項)。
- 2) 編集されたテキストが利用可能 - 要約を含む最終の編集されたドラフトテキストが TSB に提供され、研究グループの議長は局長に最終コールを開始するよう要請する(3.2 項)。勧告に含まれる関連する電子資料も同時に TSB が利用できるようにしなければならない。
- 3) 局長の最終コールの発表および投稿 - 局長は、要約および完全なテキストを参照して、すべての加盟国、セクターメンバーおよび関係者に最終コールの開始を発表する。勧告案がまだ電子的に投稿されていない場合は、この時点で行われる(3.1 項)。
- 4) 最終コールの判断 - 研究グループの議長は、TSB と協議して、以下のかどうかを判断する。
  - a) 誤植を示すコメント以外のコメントは受領されていない。この場合、勧告は承認されたものとみなされる(4.4.1 項)。
  - b) 予定されている研究グループ会議が、受領したコメントを検討するのに十分に近いものである(4.4.2 a 項)。
  - c) 時間を節約するため、および/または作業の性質と成熟度のために、コメントの解決を開始し、編集されたテキストを作成する(4.4.2 b 項)。
- 5) 局長の研究グループの発表と投稿 - 局長は、次の研究グループ会議で承認のための勧告案を検討し、
  - a) 勧告案(編集されたテキスト(LC)バージョン)とラストコールから受け取ったコメント(4.6 項)、または
  - b) コメントの解決が行われた場合は、改訂された勧告案のテキストのいずれかへの言及を含むことを発表する。改訂された勧告案がまだ電子的に投稿されていない場合は、この時点で行われる(4.6 項)。
- 6) 研究グループ決定会議 - 研究グループ会議は、すべての書面によるコメントを検討し、対処し、以下のいずれかを行う:

- a) (i)WTSA 決議 1 に基づいて、または(ii)政策または規制に影響がある可能性がある場合には、必要に応じて 5.8 項に基づいて進める(5.2 項)、または
  - b) 勧告案を承認する(5.3 項または 5.4 項)、または
  - c) 勧告案を承認しない。受け取ったコメントに対処するためのさらなる試みが適切であると結論づけられた場合、追加の作業が行われるべきであり、プロセスはステップ 2 に戻る(作業部会または研究グループ会議でのさらなる同意なしに)(5.8 項)。
- 7) コメントの解決 - 研究会の議長は、TSB 及び専門家の支援を得て、電子通信、ラポータ及び作業部会の会合を通じて、適切な場合には、コメントに対処し、新たに編集された勧告の本文(4.4.3 項)を作成する。
- 8) 編集された本文が利用可能 - 要約を含む改訂された編集された本文が TSB に提供される(4.4.3 項)。
- 9) 次の段階の判断 - 研究会の議長は、TSB と協議の上、次のいずれかの判断を行う。
- a) 計画された研究会の会合が、承認のための勧告案を検討するのに十分に近いものであるか(4.4.4 a 項)、又はコメントの解決の結果として、ITU-T A.5 勧告の基準に従ってまだ認定されていない参照組織に新たな引用文書が追加されるか(4.4.4 c 項)、又は
  - b) 時間を節約するため、及び/又は作業の性質及び成熟度のために、追加のレビューを開始すべきか(4.4.4 b 項)。
- 10) 局長の追加レビューの発表と投稿 - 局長は、改訂された勧告案の要約と完全なテキスト、および単一の文書にまとめられた決議を含むコメントを参照して、すべての加盟国およびセクターメンバーに追加レビューの開始を発表する。改訂された勧告案がまだ電子的に投稿されていない場合は、この時点で行われる(4.5 項)。
- 11) 追加レビューの判断 - 研究グループの議長は、TSB と協議の上、次のいずれかの判断を行う：
- a) 誤植を示すコメント以外のコメントを受領していない。この場合、勧告は承認されたものとみなされる(4.5.1 項);または
  - b) 誤植を示すコメント以外のコメントを受領した。この場合、プロセスは研究グループ会議に進む(4.5.2 項)。
- 12) 局長の通知-局長は、勧告案が承認されたことをメンバーに通知する(6.1 項または 6.2 項)(勧告 ITU-T A.11 参照)。

## Annex A

## Table of comments

(This annex forms an integral part of this Recommendation.)

Source of comments:

[illegible]